

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	0870101904		
法人名	衛検産業株式会社		
事業所名	グループホーム ハイジの丘		
所在地	茨城県水戸市住吉町302番地の1 (電話) 029-247-2448		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成21年3月13日

【情報提供票より】 (平成20年11月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	11人, 非常勤 2人, 常勤換算 11.95人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月13日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	2	要介護2	5		
要介護3	9	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 79 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	住吉クリニック	みと南が丘病院	河原歯科医院
---------	---------	---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は大家族のような雰囲気、2ユニットが定期的に食事やいきいき体操を一緒に行い、利用者やボランティアの人々との交流があり、自然で温かい雰囲気になっている。
散歩や買物、花見など屋外へ出かける機会を多くつくとともに、地域の人々が気軽に立ち寄れるよう事業所を開放している。
利用者は穏やかで活気のある日常を過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営者や管理者は外部評価の課題を真摯に受け止め、具体的な改善に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成にあたり全職員から意見を聞いているが、一部の職員で作成しているので全職員で取り組み、振返りや気づきをサービスの質の向上に活かすことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は地域住民の代表、教育関係者、家族の代表などを委員に2ヶ月に1回開催し、事業所の現状報告や行事の案内等を話し合っている。会議で出た意見をサービスの質の向上に活かすとともに、利用者が地域の一員として暮らしやすい状況づくりに努めている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に苦情や意見の相談受付窓口を明記し説明しているが、第三者機関の相談受付窓口も明記することを提案する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、利用者と共に地域活動に参加している。 地域の人々が定期的にボランティアで訪れている。 地域の小学校に利用者が縫った雑巾を寄贈して児童から礼状が届いたり、運動会に招待されるなど児童との交流もある。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者一人ひとりがその人らしく地域の一員として暮らし続けることを支える」という独自の理念をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は朝のミーティング時に理念を復唱し、職員で共有して支援に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、利用者と共に地域活動に参加している。 地域の人々が定期的にボランティアで訪れている。 地域の小学校に利用者が縫った雑巾を寄贈して児童から礼状が届いたり、運動会に招待されるなど児童との交流もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者や管理者は外部評価の課題を真摯に受け止め具体的な改善に努めている。 自己評価作成にあたり全職員から意見を聞いているが、一部の職員で作成している。	○	自己評価は全職員で取り組み、振返りや気づきをサービスの質の向上に活かすことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の住民代表、教育関係者、家族の代表などを委員に2ヶ月に1回開催し、事業所の現状報告や行事の案内等を話し合っている。 会議で出た意見をサービスの質の向上に活かすとともに、利用者が地域の一員として暮らしやすい状況づくりに努めている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員を受け入れ、事業所のサービスのあり方等を相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の日頃の様子を伝えたり、毎月ホーム便り「ハイジの丘版」を発行し家族に送付している。 金銭管理は利用者や家族の希望にあわせた方法で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、重要事項説明書に苦情や意見の相談受付窓口を明記し説明している。 面会時に声かけをして話しやすい雰囲気づくりに努めている。	○	重要事項説明書に事業所以外の第三者機関の苦情や意見の相談受付窓口を明記することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を避けるため職員の退職や異動は伝えていない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報は全職員に伝え、外部研修を受講した職員が内部研修時に報告する仕組みになっている。	○	外部研修や内部研修に参加できなかった職員には内部研修時に報告するばかりではなく、報告書にまとめて回覧するなど周知徹底を図ることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し勉強会等に参加して交流するとともに、職員同士の親睦会で相互の情報交換や相談をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始にあたり、ホーム見学時に他の利用者との交流や職員が自宅を訪問して面談するなど馴染みの関係をつくとともに、体験宿泊にも応じている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から生活の知恵や野菜作り、趣味などを教えてもらうことも多く、家族のような微笑ましい関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員と一緒に過ごしながら利用者の思いや意向の把握に努めている。 把握が困難な利用者の場合は家族から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良く暮らせるよう、利用者や家族など必要な関係者と課題について話し合い、意見を活かして介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は長期、短期の期間を定め見直している。 状態に変化が生じた場合は、期間前でも関係者と話し合い、現状に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況や要望に応じ、通院や買物など必要な支援を柔軟にしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそってかかりつけ医を選択している。 協力病院と24時間の連絡体制を整え、安心して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族と重度化や終末期に向けて話し合い確認書を作成しているが、マニュアルを作成するまでには至っていない。	○	重度化や終末期に向けた方針を全職員で共有できるようマニュアルの作成を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけをするとともに、記録等の管理を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、希望にそった過ごし方ができるように支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に育てた野菜を使い、好みに配慮した献立や調理方法を工夫するとともに、2ユニットと一緒に食事をする曜日を決め、楽しく交流しながら食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	気の合った利用者同士で入浴することもあり、利用者の希望にそって入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握し、食事の準備や後片付け、裁縫、野菜作り、洗濯物干し、掃除などできることを活かして役割を担ってもらったり、カラオケや体操などを楽しみながらできるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買物、花見、地域の小学校の運動会やお祭りなど一人ひとりのその日の希望にそって外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関脇の事務所から人の出入りを確認するなど鍵をかけずに自由に出入りができるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練を実施し、地域の人々に協力が得られるよう働きかけている。 また、食料の備蓄もしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握するとともに、栄養士に献立の相談をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中心に中庭を配置し、居間から利用者と共に育てている花や野菜畑が見え、音や光、生活感や季節感などに配慮して居心地よく過ごせるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた生活用品を持ち込み、その人らしい雰囲気の中で安心して過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。